

平成29年度第1回大阪府市文化振興会議 議事概要

とき : 平成29年4月18日(火) 午後2時から午後3時30分

ところ : グランキューブ大阪(大阪国際会議場)会議室1001

出席委員: 橋爪会長、中川副会長、上田委員、荻田委員、佐藤委員、山東委員、壺井委員

【概要】

1 会議の成立等について

(事務局)

- ・委員10名中7名の委員の出席により、会議が有効に成立していることを報告
- ・事務局挨拶(大阪府 文化・スポーツ室長)

2 大阪府市の文化事業について(議題1)

(事務局)

- ・資料3-1~3-4に基づき、大阪府文化事業について説明
- ・資料4-1~4-4に基づき、大阪市文化事業について説明

(橋爪会長)

○大阪国際がんセンターに対する美術作品の貸し出しの経緯について伺いたい。

(事務局)

- 大阪国際がんセンターから依頼があり、移転・オープンに当たり約130点の府所蔵作品を置かせていただいている。
- 展示にあたっては、どのような作品が患者やスタッフの癒しになるのか等を検討する場を設け、「様々に変化する心情と行動に寄り添うアート」をコンセプトに、設置したところ。
- 今後とも、積極的に貸出しに努めていく。

(佐藤委員)

○大阪文化フェスティバルが新規事業として上がっているが、単年度事業で終わるのか、それとも継続させていくのか。

(事務局)

○文化課としては継続して実施していきたいと考えている。

(上田委員)

○大阪文化フェスティバルについては、おおさかカンヴァス推進事業の終了に伴い、このような形に変化したと考えてよいか。

(事務局)

- おおさかカンヴァス推進事業の終了とは関係がない。大阪府では、おおさかカンヴァス推進事業のノウハウを活用して、アートスポット魅力創出発信事業の実施に向けて調査検討を行う予定。
- アート作品の設置場所の調査等、制度設計を行い、来年度からの事業実施につなげていきたいと考えている。

(上田委員)

- 今後こういった事業を大阪アーツカウンシルが担っていく可能性はあるのか。

(事務局)

- 大阪アーツカウンシルは事業の実施主体にはならないが、評価・審査等を通じてご意見を伺っていきたい。

3 大阪アーツカウンシルの活動について（議題2）

- ・資料5、参考資料「アートの助成金ガイドブック」「地域アーツカウンシルについての調査2016」に基づき、平成28年度の大阪アーツカウンシルの活動を佐藤委員から報告

(佐藤委員)

- 「審査・評価」「調査」「企画」の3つのミッションに沿って報告させていただく。
- 「審査」については、大阪府市の3種類の助成金審査を担当。特に、大阪市については、申請件数が多く、演劇分野からの申請が多いことから、演劇に詳しい方にアーツカウンシル専門委員に就任いただき審査。
- 「評価」については、大阪市の文化事業を評価。鑑賞型の事業が多く、ここ3年間は伝統芸能に非常に力を入れてきたという感想がある。
- 「調査」については、アーツカウンシルが企画し、大阪府市が外部に委託するという形で、平成28年度は2件の調査業務を手がけた。
- ひとつは助成金の調査。もっと多くの人に助成金制度を知ってもらいたい、また既存の助成金制度をもっと効果的にできないかと考え、セミナーを実施。さらに、そのセミナーの内容と助成金に関する調査結果を盛り込んだガイドブックを作成。
- 「調査」を通じ、文化団体が資金の悩みを感じていること、文化事業を運営するために積極的に情報を得る意欲が高いことを感じた。大阪府市の事業には、学びを提供するものが少ない。セミナーやシンポジウムを開催するのも、ニーズにあったことかもしれない。
- もうひとつが、アーツカウンシル調査。2016年に文化庁が地域アーツカウンシルを想定した助成金を新設したことを受け、新潟市、静岡県、大分県において新たに3つのアーツカウンシルが立ち上がった。調査は、外部に委託して、この3つのアーツカウンシルについて、大阪アーツカウンシル委員も同行してヒアリングを行い、資料をまとめた。
- 一口にアーツカウンシルといっても、地域によってそれぞれ事情があり、体制の組み立て方が異

なる。大阪アーツカウンシルの今後の活動の参考になると感じた。

- 「企画」については、こちらもアーツカウンシルが出したアイデアを、大阪府市が受ける形で、2年目となる芸術文化魅力育成プロジェクトを実施した。大阪はプロデューサーが不足しており、この不足が今の大阪の文化状況の負のスパイラルにつながっているのではとの問題意識がある。また、よい文化資源はたくさんあるのに上手く発信できていないと感じており、大阪文化のよいところを新たな形で発信できないか、というのがこの事業のアイデア。
- 本事業にあたってアーツカウンシルは2つに役割を分け、企画チームがミーティングに参加し、様々なアドバイスをを行い、プログラムオフィサー的な活動を行った。また、評価チームは、現在、事業評価のとりまとめを行っているところで、29年度の事業実施につなげていく。
- さらに、ここまでの3つに加え、情報発信にも力を入れた。4月から活動拠点はできたが、市民にアーツカウンシルを知ってもらう、役立ててもらうために、ウェブサイトは重要と考え、スマートフォンで閲覧しても対応できる形にリニューアル。
- また、ジャンルの枠を超えた交流の場づくりのため、今年の1月から、あつかん談話室という小さい沙龙的なミーティングを、月に1回開催。ゲストスピーカーをお招きして話を聞くだけでなく、様々な分野同士の対話を展開するというスタイル。ジャンルを超えた人々が交流して、仕事につながればという思い。
- 以上が、平成28年度のアーツカウンシルの活動。アーツカウンシルはまだ市民の目に見えていないという課題があるので、ウェブサイトなどを通じてファンを増やしたい。しかし、人的、経済的な裏づけがなく、現在の仕組みでは昨年度以上のことをするのは難しいのが率直な感想。ちょうど設立から5年目に入るところなので、今後のアーツカウンシルのあるべき姿はどのようなものなのか、文化振興会議の場で方向性を探っていきたいと思っている。

(橋爪会長)

- ご説明ありがとうございます。委員の皆様、ご質問、ご意見はございますか。

(上田委員)

- 少ない人数ながら、思いを込めて活動されていることが伝わった。
- しかしながら、常勤のスタッフがいないことは残念。大阪でアーツカウンシルがより開かれ構築的なことができるよう願っている。
- これまで十数年ほど、大阪でアーツカウンシルを作る会、考える会というものを継続してきたが、大阪の文化状況の閉塞感や、人材が見出せないという状況から、ここ1年間開くことができていない。しかしながら、地域や市民の中から、大阪のこと、文化芸術のことを考えることは大切なので、できることからやっっていこうとされていて、今年はまた、みんなで話をする場を数回設けたいと思っている。そういった市民の協働できる仕組みなど、相談していきたい。

(中川副会長)

- 佐藤委員がおっしゃったとおり、大阪アーツカウンシルの立ち上げのときの基本的な設計は3つ

の仕事であった。

- 「審査・評価」については、支援にかかる既得権化を回避しよう、活性化していこうという発想があったと思う。それを着々とやって下さった、これだけの数をよくこなして下さったな、という感謝の一言。
- しかしアーツカウンシルは、これだけで終わるのではなく、また、次世代に向けた新たな政策はどうあるべきか、という提案もしなければいけない。
- 行政職員には人事異動があり、どうしてもノウハウの蓄積が難しい。多くの自治体の文化施策が進まない要因の一つがそこにある。
- 博物館の学芸員や図書館の司書のような専門職にノウハウを蓄積するのが予防策だが、残念ながら芸術や文化にはそういうものがない。国では専門職について研究しているが、まだ先の話。
- ほとんどの自治体の文化施策が自治事務で、文化条例を形成し基本計画を作って、その計画を審査する第三者的審議会が必要だということが、全国的にシンポジウムなどを通じて広がったものの、肝心の推進機関、プロデュースしていく機関が弱体化してきた。そこで一部の自治体では、文化振興事業団などの外郭団体が推進役を担うケースが多かったが、これもまた時代の流れにより硬直化している。そこで、アーツカウンシルというものが言われてきたと、私は理解している。
- 大阪府市から、アーツカウンシル的な言葉が飛び出してきたことは、非常にスリリングというか、厳しい逆境のなかで生まれてきたと思っているが、政治、経済、社会の不安定さの中で文化施策の安定性を守っていくにはコンサルティング事務がないといけないのではないかと、そのような共通理解のもと、この制度が構築されてきたというのが、正しかったのではないかと考えている。
- 完全な独立機関は日本には存在しない。東京のアーツカウンシルは、事実上補助金事業のために委託を受けている、仮の金庫である。また、沖縄の場合も、事業のプロデュースのみ委託を受けている。
- 名目ともにカウンシル、つまり、協議をして意思形成をしていく、次に向けたチャレンジをしていく、これを一定の負託を受けて行う機関にするためには、審議会の専門部会とするのがモアバターではないかということで、現在のスタイルでスタートした。
- 「評価・審査」「企画」「調査」の3つがアーツカウンシルの機能だが、調査は、次代に向けたなすべき施策は何かを探るために行うもの。企画は、新たなムーブメントを起こしていく、単にこなすのではなく、ことを起こすということ。カウンシル自らするととなると大きな組織が必要なので、企画を提案し、それを実施するのは行政というスタイル。
- 佐藤委員は見事にこの3つを完成されていて、本当に感服しました。ただ、佐藤委員にすごく負担がかかり過ぎているのが非常に気になるところ。
- 今後の大阪府市の事業の展開に向けて活動を開いていく、提案ができるためには、もうワンステップ研究が必要かな、その時期にきたのかなと感じている。
- 企画業務や、調査業務の項目、主題についてはどのようにして決められたのか。

(佐藤委員)

- 月に1回ペースで開いているアーツカウンシル部会で、何が課題か、どんな情報が必要なのかを協議して決めた。

(中川副会長)

○かなり部会に権限委任した形で進めていただいているが、今後このやり方でやっていく上で、何が壁になっているのか。そういったことを議論していく時期に来たという気持ちを持っている。

(荻田委員)

○私は上方演芸資料館に関わらせていただっており、行政と文化に関わっている人が、本当に協力していかなければいけないと感じている。

○行政の縦割りの部分を取り払う努力、お互い協調していく姿を見せていただきたい。職員が異動することも確かに問題だけれども、部局間にある壁を、もっと低くしていただき、いろいろな話ができるようにしていただきたい。そのことを行政は考えていただき、われわれ委員としても何ができるか考えていければと思っている。

(山東委員)

○アーツカウンシルの調査資料を見せていただいているが、大学というのは大変使い勝手のよい機能であると思っている。大分県や静岡県の場合でも、公立の短大や大学と連携している。大阪には大阪府立大学、大阪市立大学と大きな公立大学があるので、これをどう活かしていくか。行政とのつながりの中でどのようなことができるのかということ、密に考えていただければと思う。

○また、大阪府市の事業のところ、青少年の健全育成とあるが、小中学校には目が行くけれど、高等学校となると、専門性がある目配りにくい。小中学生は育成するが、高校生では自分でやりなさい、社会はまた違うというところがあるので、ちょっと漏れてしまうのかなど。高校は、大学のように自主財源もない状況。次代を担う人材育成という意味で、高校と大学をどういう風に位置づけたらよいのかということ、感想めいたことで恐縮だが申し上げる。

4 大阪アーツカウンシルのあり方について（議題3）

- ・部会を設置し、大阪アーツカウンシルのあり方を検討。
- ・部会における審議の結果を踏まえ、文化振興会議において、最終取りまとめ。

(橋爪会長)

○前回の会議において、佐藤委員からアーツカウンシルのあり方について、引き続きこの文化振興会議の中で検討していただきたいというご発言があった。

○先ほど中川副会長からアーツカウンシルの経緯の話をしていただいたが、アーツカウンシルができて5年目を迎えるということで、これまでの取り組みを検証しながら、今後のあり方、大阪アーツカウンシルの方向性を本審議会でもまとめてまいりたい。

○手順についての提案だが、まずアーツカウンシル部会で自己点検をしていただき、考え方をまとめていただく。その上で本会議の部会として、アーツカウンシルを検討するためのワーキング部会を設置。集中議論し、最終的にこの会議に諮る、という段階を踏んではどうかと思う。

(上田委員)

○その手順をとっていくのは来年度以降か。それとも今年後半に検討するのか。

(橋爪会長)

○次年度に向けてあり方を取りまとめられるよう、今年度議論したいと考えている。

(上田委員)

○江之子島文化芸術創造センターにアーツカウンシルの拠点ができるが、その部屋はどのように開かれているのか。

(事務局)

○活動拠点については、江之子島文化芸術創造センターの2階の1室がアーツカウンシルの部屋になっている。佐藤委員がいらっしゃるときはもちろん、アーツマネージャーが活動されるときも開いている。誰もいないときは閉めているが、同センターの事務局にフォローしてもらって、連絡等をとれる体制になっている。

(橋爪会長)

○他に特にご意見がなければ、ワーキングの委員については、設置規約第11条第3項により会長の指名になっているので、アーツカウンシルの立ち上げにご尽力いただいた中川副会長、統括責任者の佐藤委員、アーツカウンシルの仕組みに詳しい藤野委員の3名にお願いし、部会長は、中川副会長に務めていただきたいと思うがいかがでしょうか。

(異議なし)

○それでは、そのようにいたします。

○なお、ワーキング部会では、個人や団体に関する情報についても話題になることが予想されるため、大阪府の「会議の公開に関する指針」第3条に基づき非公開とし、内容については、後日、本審議会において概要を報告することとしたいので、よろしく願います。

○あり方検討のスケジュールについては、年内を目標に最終取りまとめを行いたいと考えている。そのため、来月中をめぐりに、アーツカウンシル部会において、自己点検の上、ご意見をまとめていただき、6月以降、適宜ワーキングを開催し、秋頃には案を取りまとめたいと思うので、委員の皆様にはお忙しい中恐縮ですが、よろしく願います。

○以上で議題は終わりですが、他に何かございますか。

(中川副会長)

○意見、質問ではないが、アーツカウンシルを主導した佐藤委員の提案によるものが、あちこちによい効果、影響を与えていることを申し上げたい。

○アーツカウンシルに関わる人はアーティストのようなイメージがあるが、アーツカウンシルは市民がプロデューサーになればという思想がある。佐藤委員のお考えの中にはそれが濃厚に出て

おり、その考え方があちこちの自治体にインパクトを与えているのではないか。佐藤委員には大変なご苦労があり、ご辛抱いただきたいところもあるが、活動がじわっと周りに響き始めている、ということをおし上げておく。

(橋爪会長)

○ありがとうございます。

○以上で、終了したいと思います。審議会の円滑な進行にご協力いただき、ありがとうございました。

— 以 上 —